

医療にユーモアを忘れないで —医療法人やのクリニック—

全国地域医業研究会 高田 圭一（長公認会計士事務所）

はじめに

今回の「リレールポ わが町の医療・福祉と支援活動」は、福岡県久留米市、その東西を流れる筑後川中流に隣接する田園地帯・田主丸町に開業されている「医療法人やのクリニック」さんをご紹介いたします。

クリニック概要

院長の矢野敬文先生は、薬剤師でもある事務長の奥さま・美紀子さんとともに、平成一三年に「やのクリニック」を開業されました。戦後から内科・小児科医として地域医療に従事されていた院長の父親である文雄氏（平成二年二月逝去）の医院を継承しての開設です。クリニック周辺は久留米市東部に位置する田園地帯で、診療科目は内科・小児科・呼吸器内科・アレルギー科を標榜されています。患者年齢層もお年寄りから赤ちゃんまでと幅広く、院長の気さくな人柄や専門領域を頼って、地元のみならず久留米市を中心部や福岡市など遠方からの患者さんも来院されます。

Q 医師を志した動機と開業された理由についてお聞かせ下さい。

A 私の実家は内科小児科医院でしたので、幼少の頃から父の診療する姿をみながら育ちました。小学生の頃、父が深夜にカーキ色のオーバーを着てオートバイに股がつて往診に出向く姿を今でも覚えています。そのような父の診療する姿から「人には役に立つ、そして感謝されることの大切さや心地よさを無意識に肌で感じることができた」と思いました。

昭和五四年 久留米大学医学部卒業
昭和五七年 久留米大学高度救命救急センターER勤務

昭和六二年 米国ジョーンズ・ホブキンス大学留学
昭和六四年 久留米大学病院第一内科病棟医長
平成三年 久留米大学病院第一内科
平成四年 久留米大学病院呼吸器病センター外来医長
平成六年 国立病院九州医療センター呼吸器科科長（初代）、久留米大学病院第一内科助教授（准教授）併

任

平成一三年 やのクリニック開設
幅広い領域で貴重な経験を積んでこられた後、現在はご出身地にて開業医としてご活躍中です。

また、医学生の頃、小児科の教授から内科学の神様と称されるウイリアム・オスラー博士の存在を知ることができたことは幸運でした。オスラー博士については多くの紹介された著書がありますので詳細は省略いたしますが、とりわけ、医師として旅立つ医学生に宛てた講演集『平靜の心（Aequanimitas）』は今でも大切な座右の書です。

Q クリニックで心がけていらっしゃることをお聞かせ下さい。

A 日々の診療にユーモアを忘れないことを大事にしています。

外來患者さんのなかには、現在でも私が大学病院・総合病院勤務の頃に診察していた患者さんが継続して遠方から来院されます。とてもありがたいことです。患者さんは自分自身のことを親身になってくれるドクターのことは忘れずにいてくれてい

すみにそつともつておきたいような気持ちですが：（笑）。

るもので、何かあつたらこの先生に診察してもらいたいと思っています。

よくいわれるよう、患者さんは

医院にかかるのでその医院に通院し

ています。医療、とりわけ私たち開

業医師が担うプライマリーケアは、

病院規模で決まるのではなく医師個

人の日々鍛錬された医師患者関係、

診断治療、そしてマネージメントの

能力であるといった意識をもって行

うことこそが必要だと思います。そ

のなかで、毎日すべての患者さんに

というわけにはいきませんが、患者

さんの目線に立つてユーモアを交え

ながら、なるべく多くの患者さんが

ホットした気分で帰院できたらと思

っています。この点については人生

半ばをすぎましたが、まだ修業

が足りないと痛感しています。

また、一番クレームの多いといわ

れる「患者さんの待ち時間を少なく

すること」も日常診療で心がけてい



福岡県久留米市田主丸町の「医療法人やのクリニック」



「医療法人やのクリニック」を支えるスタッフセミナー



「ドクター矢野のよかよか健康セミナー&コンサート」

ます。私自身が率先して患者さんの目線でチェックするように努めています。たとえば、気分よく待つてくださいを話し合っています。スタッフと

ただくために、受付スタッフには待合室にいらっしゃる患者さんへの気配りや明るい雰囲気づくりをお願い

しています。また、待合室では、医療に関するポスターもお年寄りの目

の高さを基準に掲示するように配慮

していますし、患者さんが読んで役

に立つような健康関連の雑誌やパン

フレット等を置くようにしています。

患者さん同士で明るい会話がはずん

でいる光景を目にすると、こちらま

で和んできますよね。

Q 診療外の活動についてお聞かせ

下さい。

A 毎週一回、スタッフ全員で昼食を一緒にしながら、ランチセミナー

&ミーティングをやっています。こ

こでは「肩の凝らない勉強会」とし

て、感染予防や種々の病気・症状か

ら接遇・身だしなみに至るまで種々

のテーマについて、また、日々の診療上で気がついた問題点や解決策などを話し合っています。スタッフと

同じ釜の飯を食べること、これは総合病院時代に同じ診療科のレジ

デント・研修医と定期的にやってい

たことで、チームワークとしてクリ

ニックを運営していくうえでとても有用だと思います（ここでもユーモアを忘れないようにしています！）。

余談ですが、当クリニックの昼食および休憩は、一人の緊急対応係を除き、残りのスタッフは「お昼寝タイム」に入るようになっています。スタッフが自分たちで行っていること

なのですが、院長としては「昼から

の診療業務にリフレッシュした気分で取りかかれればこれでいいのでは」と容認しています。

学生時代ワンドラーホーチル部で山歩きをしていた際の知識ですが、山道に横たわる枯れた木を「ナースロゴ」といいます。この枯れた木に

の弹き語りがあります。五年前から

年に一回ほど、主に来院される患者

さんを対象に「健康のお話」とそれ

に引き続いて「ウクレレの弾き語りのミニコンサート」を開催しています（題して「ドクター矢野のよかよか健康セミナー&ミニコンサート」）。

私の下手な趣味の一つにウクレレ

です（題して「ドクター矢野のよかよか健康セミナー&ミニコンサート」）。

童謡・唱歌・邦楽や外国音楽のスタンダード曲などを披露させてもらつ

ています。決まって最後に童謡「ふるさと」をみなさんと大合唱をしま

す。日頃は口数の少ない方や認知症の方も歌つて下さいます。最近はエ

スカレートして、ウッドベースやキーボード奏者にボランティアで協力を

お願いし、少し音楽のレベルがあがつたかもしれません（笑）。

地域の医師会の先生とは月に一回

コケ類等が繁殖し、これを食べに昆虫が集まり、またそれを食べに鳥、小動物がやってくるといったサイクルが森では成り立っています。そのため、森を看護する役割をもつて

いるということから、この枯れた木のことを「ナースロゴ」というのだ

そうです。そういうわけで、やのクリニックには看護師さんが横になつた医療分野の「ナースロゴ」が存在

します！（スタッフの皆さん失礼しました！いつものジョークです！）。

私の下手な趣味の一つにウクレレの弾き語りがあります。五年前から

年に一回ほど、主に来院される患者

さんを対象に「健康のお話」とそれ

に引き続いて「ウクレレの弾き語りのミニコンサート」を開催していま

す（題して「ドクター矢野のよかよか健康セミナー&ミニコンサート」）。

童謡・唱歌・邦楽や外国音楽のスタンダード曲などを披露させてもらつ

ています。決まって最後に童謡「ふ

るさと」をみなさんと大合唱をしま

す。日頃は口数の少ない方や認知症の方も歌つて下さいます。最近はエ

スカレートして、ウッドベースやキーボード奏者にボランティアで協力を

お願いし、少し音楽のレベルがあがつたかもしれません（笑）。

地域の医師会の先生とは月に一回

す。その後、親睦・情報交換を兼ねて近くの居酒屋で会食をします。樂しみな会合の一つです。さらに、私の専門領域である呼吸器疾患領域では呼吸器専門医を交えて福岡呼吸器懇話会という集まりをやっており、知識・経験の研鑽に努めています。

地元医師会（現在、地元内科医会会長を勤めています）の活動としては、学校医から予防接種・介護審査・種々の検診などなど多岐にわたります。地域医療を担う、地域に役に立つというモチベーションを高くして、今後も積極的に活動していきたいと思っています。当クリニックの詳細はホームページ（<http://yanochi.myhp-net.com/>）も参照いただければと思います。

Q 開業後の感想をお聞かせ下さい。

A 前述しましたように、父の医院を継承して開業しました。医療機器は最新の物を導入しましたが、建物は多少、老朽化しています。建物が古いため、スタッフのチームワークを最大限に活かして、診療を行ってきました。開業四、五年が経過した頃には、父の頃と違つて広域の地域から受診していただけたようになりました。

今後も今までの経験を最大限に活かして種々の病院との連携を図りながらなりました。

終わりに

矢野先生は、お話をありました「ウクレレの弾き語り」のほかに「サイクリング」も趣味としていらっしゃいます。単に自転車でドライブするだけでなく、本格的なロードレースにも参加されることもあるとお聞きしました。さすがにスポーツマンらしく、明るく爽やかな先生で、ユーモアあふれるお話を笑いの絶えないインタビューとなりました。

医療法人やのクリニックさんの周辺には「アレルギー科」を標榜しているクリニックは少ないため、専門医を求めて遠方から来られる患者さんは少なくないようです。

また、院外処方が主流となつている昨今、「患者さんのために」と院内処方を継続されています。私的な意見ではありますが、患者の立場としましても、やはり、治療費の自己負担額や利便性を考えると「院内処方」のほうが有難く感じます。

最後に、院長先生が何度もおっしゃっていた「患者さんの目線」という言葉がとても印象的でした。同じサービス業に携わる者として、身の引き締まる思いがしました。

がら、地域医療に貢献し、さらなる努力をいたしたいと思っています。最後に医療にユーモアを忘れないで。

全国地域医業研究会 ご案内

全国地域医業研究会は病院などの永続及び安定経営を願つて、継続的に各地域で支援を行っている税理士・公認会計士の会計事務所会員及び医療経営支援に積極的な企業法人会員等で構成される非営利の研究会です。

地域に根ざした医療・福祉経営を実践的に支援する全国の会員、法人会員、支部、協力会員、連携等によるネットワークグループです。各分野の専門家が「最新の医療・福祉情報」と「コンサルティングノウハウ」を持ちより、今後の方向性を見極めつつ、地域に根ざした明日の医療・福祉経営を支援することを目的として活動しております。

- 地域医療のための地域医療・介護の情報公開及び無料提供活動
- 支援活動のための各種セミナー開催活動
- 医療と介護のためのネットワーク作り支援活動
- 特定非営利活動法人（NPO）の設立、運営への助言及び支援活動
- 地域に貢献する医療機関、介護事業所に詳しい会計事務所や企業のご紹介活動

資料請求は下記ホームページをご覧の上お申ください。

医療経営を実践的に支援する会計人ネットワーク集団 「全国地域医業研究会」

・本部事務局 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-7 ストーク新宿308
TEL:03-3344-5735 FAX:03-3344-5286

・ホームページアドレス <http://www.e-coba.jp/>

・e-mailアドレス chiken-honbu@e-coba.jp